



[祈りと信仰のまち京都]

歴 147 (R02)

南北朝時代、隠居した後伏見院の皇女進子内親王（法号本覚尼）により四宗兼学道場として、延文元年（1356）に創設された光照院は、17世紀初頭、後陽成天皇皇女の入寺以来、比丘尼御所となり、江戸時代には「常盤御所」の称号を賜った浄土宗の尼門跡寺院です。

応仁・文明の乱により焼失後、後土御門天皇から寺地を与えられ、新町通の東、寺之内通の南に移転しました。新町通に山門を設け、山門の奥に常盤会館があり、その北側に建つ本堂と御殿へと続いています。

常盤会館は、昭和3年、京都御所で行われた昭和大礼の際、饗宴場として用いられていた建物の一部を下賜されたもので、真紅の絨毯が敷かれた格天井の大きな広間は、生け花の展示会など文化行事の会場としても活用されています。

御殿は、大正8年に建てられた京都御所の旧桂宮御殿を一部移築したものと伝わり、北面する庭園には樹齢500年といわれる立派な五葉松が枯山水庭園の中央にあります。

昭和43年に移築された本堂は、折上格天井となっており、中央部の花天井の雅やかさは目を奪われるほど見事です。通常は非公開ですが、特別公開の際に見学できます。



山門



本堂



〒602-0064 京都市上京区新町通上立売上る安楽小路町425

電話番号 075-441-2254

アクセス 地下鉄烏丸線「今出川駅」徒歩8分